

## 「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」

実施主体：埼玉県教育委員会、県立蓮田松韻高等学校、県立宮代高等学校、  
 県立松山女子高等学校 県立日高高等学校、県立芸術総合高等学校、  
 県立皆野高等学校  
 協力団体：デジタルアーツ株式会社、NPO法人スクールネットワークアドバイザー

### 《取組の概要》

県立高等学校6校を研究校に指定し、「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」を実施。

- ① 各研究校で20人から40人の代表生徒を選出し、代表生徒が話し合い活動等をとおして『わたしたちのルール』の案を作成する。
- ② ①で作成した案を各クラスに提示するなどして全校生徒から意見を集め、代表生徒がとりまとめて「わたしたちのルール」を策定する。
- ③ 外部講師によるスマートフォン等の安全利用に関する講演会を実施し、その中で代表生徒が『私たちのルール』を全校生徒に周知し、遵守を呼びかける。

### 1 本事業に取り組んだ理由(課題を含めて)

スマートフォンの普及に伴い、SNS上での不適切な投稿や他人に対する誹謗中傷などの問題が生じている。文部科学省が毎年実施している「問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の「いじめの態様」においても「パソコンや携帯電話で誹謗中傷や嫌なことをされる」の項目は平成23年度から平成24年度調査では大きく増加している。

しかし、ネットいじめを含めたネットトラブルの問題は大人からは見えにくい部分があり、教員による指導や監視だけでは解決が困難である。

この問題に対応するには、子供たちがネットいじめやネットトラブルを自分自身の問題と捉え、課題解決に向けて主体的に関わろうとする態度と自らが課題を解決していく力を養うことが必要である。

そこで、生徒自身が主体的に話し合い活動を行い、自分たちが守るべきルールを策定することとした。

### 2 実施スケジュール

- 4月 研究校募集
- 5月 研究校の指定
- 7月～9月 各研究校で代表生徒によるワークショップを開催
- 7月～10月 各研究校で『私たちのルール』策定
- 10月 外部講師による講演会を実施、代表生徒が『私たちのルール』を全校生徒に周知



『私たちのルール』  
 全校生徒への発表(宮代高校)

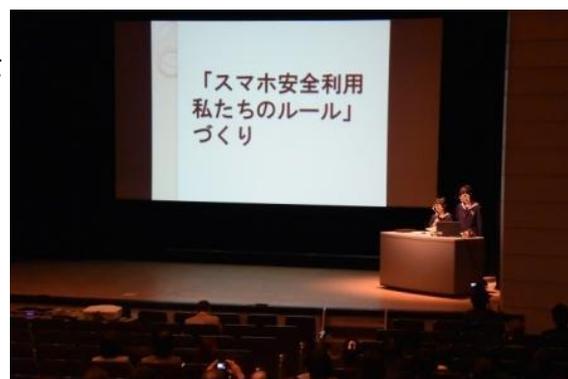
### 3 事業展開

#### 《各研究校での取組》

- ① 代表生徒を選出し、校内のワークショップをとおして、生徒自身が『私たちのルール』の案を作成する。その際、外部講師が生徒の疑問点に答える。
- ② 代表生徒が作成した『私たちのルール』案を全校生徒に提示し意見を集め、代表生徒が取りまとめて各学校の「私たちのルール」を策定する。
- ③ 『私たちのルール』を策定したのち、代表生徒が全校生徒に周知する。あわせて、外部講師によるスマートフォン等の安全利用に関する講演会を実施する。

#### 《周知に関する取組》

- ① 11月4日に埼玉県が開催したいじめ撲滅を呼びかけるイベント「Stop! いじめ in SAITAMA 2014」における代表校1校による取組と成果に関する発表。
- ② 各研究校の取組について、年度内に県のHPに掲載予定。



11/4イベントでの成果発表(松山女子高校)

## 4 事業の成果(効果)

### 《各研究校で策定された『スマホ安全利用私たちのルール』(例)》

- ・SNSの利用ルールを守ろう「誰でも見ることができる」ということを忘れない。
- ・SNSでつぶやくときには3回見直す！
- ・スマホは22:00まで！
- ・常に相手のことを想って発言する。
- ・依存しすぎないように、他のことにも興味・関心を持つ。

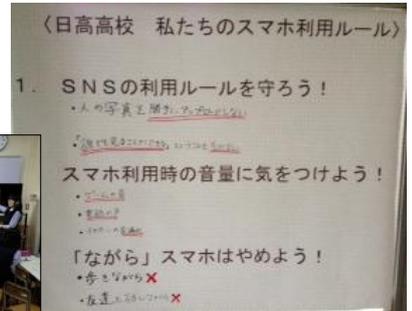
※ 各研究校、3～5つのルールを策定

### 《各研究校の生徒の反応等》

- ・普段話すことがない内容をみんなで話し合いながら、ルールを再確認することができた。
- ・スマホの利用についてこれまで、こんなに深く考えたことはなかったので、とても勉強になった。

### 《取組の成果》

- ・いずれの研究校でも、代表生徒が意欲的にワークショップで事例や意見をだし、積極的に参加していた。
- ・「大人からの押し付けでなく、全校生徒がルール策定に関わったことで生徒の意識が高められた。(研究校)」
- ・「これまではスマートフォン等を介した生徒トラブルが発生していたが、この取組以降は今のところ、同様のトラブルは発生していない。」(研究校)



私たちのルール(日高高校)



ワークショップの様子  
(芸術総合高校)

## 5 事業を成功させるためのポイント

### 《生徒の主体性と問題意識の喚起》

『私たちのルール』策定に向けて、生徒自身が主体性を持って、積極的に取り組む(考える)雰囲気を作り出すことが重要である。

各校のワークショップでは、活発に意見を出す生徒が多くおり、教員や外部講師はなかなか発言できない生徒に発言のきっかけを与えたり、言い換えてまとめたりしながら、生徒の自由な発言を上手に促していた。

生徒一人一人が、「自分で考えて『私たちのルール』を策定した。」という意識を持てるような取組にしていくことで、ネットいじめやネットトラブルの防止に向けた生徒の意識の高揚が図れるものと考えている。



スマートフォンの安全利用に関する講演会(皆野高校)

## 6 今後の展開(継続・発展させていくために)

今年度の取組では、研究校から以下の課題が挙げられた。

- ① 高まった意識を継続すること。
- ② 策定されたルールを継続的に見直し、生徒の実情に合った「ルール」を維持すること。
- ③ 生徒自身が作成したルールを、生徒自身に定着させること。
- ④ ネットトラブルに関する教員側の知識の増強

「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」については来年度も実施する。上記の課題について検討を進めるとともに、生徒の持っている知識や情報を教員と共有していく手立てについても研究する予定である。



ワークショップの様子(蓮田松韻高校)

## 7 その他

特記事項なし

## 8 参考資料等

取組に関する資料を年度内には埼玉県HPに掲載する予定